

神経内科部長 新任ごあいさつ

神経内科部長 浅田朋彦

皆様、このたび医療法人幸生会 琵琶湖中央病院 神経内科にお世話になります浅田 朋彦と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は平成6年大学を卒業しまして、医師国家試験合格後、直ちに神経内科の研修医として大学附属病院での研修を経て、以後、20年神経内科医師として患者さんを診てまいりました。

患者さんの治療にあたっては、いろいろな方法が必要と思ひ、並行して内科、漢方、温泉療法（物理療法）を学ばせていただきました。

また20年の臨床勤務の後、ご縁があり、保健所と県庁障害福祉課で3年（障害福祉課は2年）公衆衛生医師として、湖北（長浜）と湖西（高島）、県庁（大津）で勤務いたしました。

神経内科の中では、神経心理学を主として神経画像と合わせて論文を完成し学位をいただきました。



漢方は最初、関東で学びました。その後、関西でも学ぶことができましたので、漢方全体を俯瞰できてとてもよかったと思ひます。

公衆衛生医師は、特殊な領域で結核を含む感染症や食中毒から、地域保健、地域医療構想、地域包括ケアと非常に幅広い医療介護福祉の分野を網羅して対応しておりました。各担当者にも非常によくしていただき、とても助かっていました。健康危機管理事案が発生した時は、保健所の本来業務であり、緊張感を持って仕事に取り組んできました。

このような経緯を経て、このたびはじめて、回復期リハビリテーション専門病院に勤務させていただくことになりました。リハビリテーションは3次予防であり、たとえ障害が残っていても残存する機能を用い

て、その方ご自身の生活がうまくできるようにしていくことが大切であると思ひます。しかし、3次予防への対応は、今後さらに超高齢社会の中で求められることが多いのに対し、残念ながら行政においても1次および2次予防に比較して、未着手のことが多く、これから進めていくべき課題が多い分野でした。また神経内科の分野での神経心理領域あるいは高次脳機能障害にかかる脳血管障害の領域は、それに連なる医療が、超高齢社会の中で、回復期リハビリテーションを中心に在宅医療・介護・福祉と連携していわゆる地域包括ケアのなかで進めていくことが求められています。

50歳を超えた今、今まで学ばせていただいていたこれらの分野の融合を目標にしています。自分の中では、それぞれの分野に専門性があると思ひますので、患者さんを診ていくなかで、最終的には有機的な融合をしていきたいと思ひています。

最後になりましたが、私の趣味は囲碁と将棋です。囲碁は関西棋院の五段免状、将棋は四段認定（二段免状）です。学生のころからだいぶ経って、ほとんど打ったり、指したりしていませんので実力は、どちらも五級くらいかもしれません。お相手していただける方、お声掛けください。

どうかよろしくお願ひ申し上げます。

今年度は29名の新入職員!!!

医師・看護師・PT・OT・ST・管理栄養士等、
全病棟回復期リハビリテーション病棟の
新しいスタッフです。

「腰痛サポートカー」運行中

緊急腰痛お迎え・入院対応
腰痛サポートダイヤル

090-2382-8432